

戸田 あつひろ 活動報告



ご挨拶

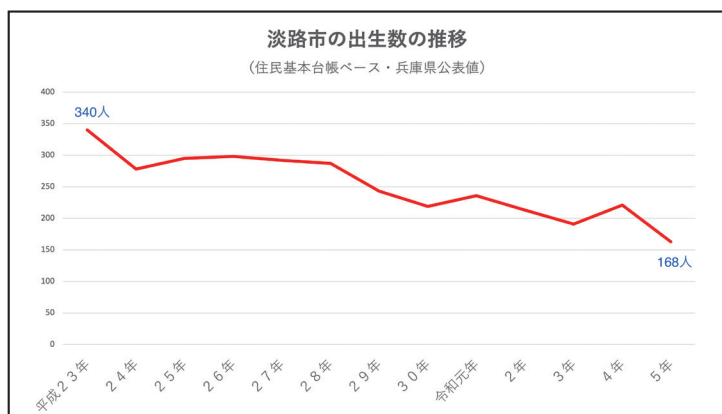
皆様にはご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。また、平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

本活動報告では第110回定例会(6月議会)で行なった一般質問の内容を掲載しております。ご意見ご質問等ございましたら裏面下段のご連絡先までご連絡いただければ幸いです。

戸田敦大(とだ あつひろ)
昭和60年6月24日生まれ(39歳)

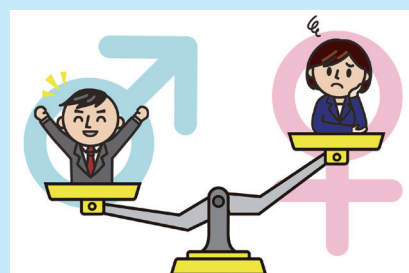
出生数168人過去最低 早期の対策が必要!

令和5年度の出生数は168人と、令和3年度の185人を下回り過去最低の出生数でした。淡路市の最上位計画の「第2次淡路市総合計画後期基本計画」(令和4年度から実施)では**「出生数250人の維持を前提条件に定め」**とあります。しかし平成29年度から出生数は250人を上回ることはなく(兵庫県公表値)、このままでは総合計画が「絵に描いた餅」になってしまいます。現在も少子化対策事業として合計63の事業を実施していますが、**出生数の減少に歯止めが効かない現状からも、事業の目標設定や効果の検証を行い、より効果的な対策が必要です。**



若年女性が魅力を感じるまちづくりが必要!

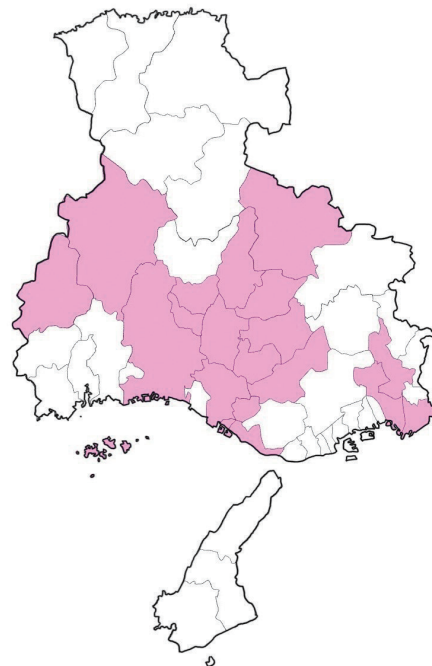
出生数の減少は若年女性の人口が大きく関与すると言われています。若者、特に女性にとって「淡路市で暮らす価値」を創り、高めていくことが求められます。女性や若者が住みたいと思うまちを本気で創らない限り淡路市は衰退から免れません。そのためには土台となる「公平性」の確保が不可欠です。男女間の公平性を確保した上でなければ様々な施策を行なっても生きてきません。言葉は悪いのですが「おっさんの、おっさんによる、おっさんのための仕組み」を変える必要があると考えます(ちなみに私も来年で40歳を迎える1人のおっさんです。個人的にも特に気をつけていきたいと思います)。その上で職場における働きやすい環境や多様な働き方の確保、子育て環境の充実、まちの活気・賑わいの創出が求められます。



こども医療費助成事業の所得制限撤廃を!

淡路市では子どもの医療費に対し「乳幼児医療助成事業」と「こども医療助成事業」の2つの助成事業があります。これらの事業では父母または扶養義務者の市民税所得割税額の合計が23万5,000円を基準とし、基準未満では無料、基準以上では有償とする所得制限が設けられています。

子どもを産み育てるためには多かれ少なかれ経済的な負担が必要です。1人、2人育てるのと3人、4人、5人と育てるのでは経済的負担も変わります。より多く産み育てようと思えば、その分働いて稼がないといけません。一生懸命働いて税金もそのぶん多く払う世帯の方が費用負担が重くなるのが現行の制度です。所得制限を設けている理由について執行部の答弁では「真に支援が必要なものに対して負担を軽減することを目的にしていることから、一定基準による所得制限を設けている。」との答弁でした。ですが、**一生懸命働いて、税金も多く納めて、子どもを多く産み育てる家庭を応援するどころか、その反対の施策を打っている所得制限を廃止すべきだと考えます。**



ピンク色は淡路市と同じ助成内容で所得制限を設けていない自治体

久留麻バス停への高速バスの停車が実現しました!

地元の6町内会の連名で久留麻バス停への高速バスの停車、並びにバスベイ(バスの駐車場)の設置に関する要望書が昨年6月に市に提出されていました。地元の町内会から相談をいただき、バス事業者、市担当部局と協議を重ね、**本年7月から同バス停に高速バスの停車が実現しました。**引き続きさらなる安全確保、渋滞緩和のためバスベイの設置に向けて活動してまいります。



自己紹介

戸田敦大(とだ あつひろ) 昭和60年6月24日生まれ(39歳)
岩屋中学校、明石高校、甲南大学経営学部 卒業

略歴

2008年 ゼブラ株式会社 入社
営業として名古屋支店勤務。主に北陸地方を担当する。地方と都市部の格差や、地方の疲弊を目の当たりにし、淡路市へ帰ることを決意する。
2010年 淡路磁油株式会社 入社
2021年 淡路市議会議員選挙 初当選
2022年 産業厚生常任委員会副委員長会派「結の会」所属
2023年 総務文教常任委員会副委員長

